

ねかたいせき すわじいんあと
根方遺跡・諏訪寺院跡

所在地：稲敷郡阿見町追原 1535-1 ほか
調査期間：令和6年9月1日～令和7年3月31日
調査面積：2,169 m²
委託者：茨城県竜ヶ崎工事事務所
調査原因：一般県道稲敷阿見線現道拡幅工事
調査機関：公益財団法人茨城県教育財団（阿見事務所）
TEL：029-225-6587 <https://www.ibaraki-maibun.org>



HP



X

遺跡の概要

根方遺跡・諏訪寺院跡は、阿見町東部、清明川左岸の標高約 25mの台地上に立地しています。根方遺跡は、平成 21 年度に当財団が発掘調査を行い、今回が第2次調査となります。今回の調査区付近の山林には、建物の基壇と推測される盛土状の高まりがあり、その周辺では奈良・平安時代の布目瓦が採集されていることから、諏訪寺院跡と呼ばれています。根方遺跡の第1次調査では、寺院跡と関連する軒丸瓦や鬼瓦などが出土したほか、粘土採掘坑が確認されていることから、窯業生産に関わる可能性が想定されます。



根方遺跡・諏訪寺院跡の位置（いばらきデジタルマップに加筆）

調査の成果

今回の調査では、古墳時代後期の堅穴建物跡、奈良・平安時代の基壇建物跡や柱穴列、堅穴建物跡、掘立柱建物跡などを確認しました。第1号基壇建物跡は、当時の地表面の上に盛土したもので、掘り込み地業を行わない簡素な構造です。周囲からは軒瓦を含む多量の瓦や長さ 30 cm を超える大型の鉄釘、柱の基礎となる礎石などが出土しました。また、この建物跡の北東では、調査区内を縦断する南北方向の柱穴列を確認しました。調査中のため、今後の検討課題ではありますが、山林に残る基壇と推測される盛土状の高まりと第1号基壇建物跡や柱穴列の位置関係、遺構の構造などから、第1号基壇建物跡は門、柱穴列は回廊の可能性が考えられます。

諏訪寺院跡の創建については、根方遺跡の第1次調査で古墳時代末～奈良時代初め頃（7世紀末～8世紀初頭）の土器とともに瓦が出土したことから、この時期には寺の造営が行われていたことが明らかになり、年代を特定できる貴重な遺跡となっています。今回の調査で寺院跡に関連する遺構・遺物が確認できたことは、当遺跡の全体像を検討できることに加え、数少ない古代寺院跡の調査事例としても重要なものとなります。



第1号基壇建物跡（赤）と散在する瓦や礎石（北から撮影）

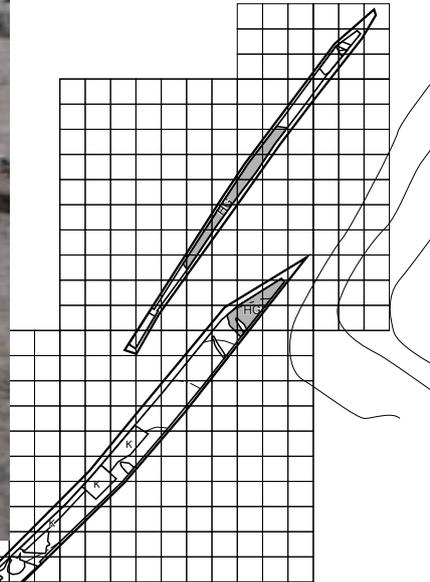


出土した軒丸瓦

特徴的な遺構・遺物



第1号基壇建物跡北側に散在する瓦片など（東から撮影）



出土した鉄釘

建物の基壇と推測される盛土状の高まり

柱穴列

第1号基壇建物跡



南北に並ぶ柱穴列（北から撮影）



第1号基壇建物跡付近から出土した軒丸瓦ほか

この資料は調査中の情報であり、最終的な結果ではありません。
引用・掲載はご遠慮願います。



0 (1:1,200) 40m